

環境方針

1. 環境負荷低減に努めます。
2. 環境マネジメントシステムの構築により、環境保全対応の強化を図ります。
3. 環境法規、条例等の法的要求事項を遵守します。

(1992年策定)

長期目標(達成目標年度 2010年度)

ニチレイグループは、1992年に策定された環境方針に基づき、2010年度までの長期目標を策定し、その達成に向けて取り組んでいます。

① 廃棄物削減と再資源化

廃棄物の発生抑制、再使用、リサイクルを推進し、最終処分廃棄物量※ゼロをめざします。  
※事業所外に排出される廃棄物のうち、直接処分場に埋め立てられる廃棄物およびエネルギー利用などがなく単純焼却される廃棄物の量

② 地球温暖化防止

食品工場や物流センターなどでのエネルギー使用量や物流時の燃料使用量の低減など、事業活動に伴い排出されるCO<sub>2</sub>の削減に努めます。

- 食品工場についてはグループ数値目標を設定  
対象：ニチレイフーズおよびニチレイフレッシュ国内食品工場  
目標：生産トン当たりのCO<sub>2</sub>排出量(電力・燃料由来)を1999年度比15%削減

③ 環境に配慮した商品・サービスの提供

各社の事業の特長を踏まえ、環境負荷低減に貢献できる商品・サービスを提供します。

④ 環境への影響の大きい化学物質への適切な対応

適正管理および必要に応じた迅速処理などにより、環境への影響を最小限に抑えます。

⑤ 本社・支社オフィスにおける環境保全への取り組み

事務所における省エネ活動やごみの分別、グリーン購入などに取り組みます。

⑥ 環境マネジメントシステムの構築

各社、各事業所の事業特性に沿った環境負荷の低減を推進していくための仕組みを構築、改善していきます。

⑦ 環境法規遵守

遵守状況を常に確認するとともに、制定や改正などにも迅速に対応します。

2005年度実績

ニチレイグループは、3カ年ごとに中期目標を定め環境活動に取り組んでいます。2005年度は、現在進行中の3カ年計画の2年度目に当たります。「廃棄物削減と再資源化」については2006年度目標を2005年度で達成したため、目標数値を上方修正しました。

① 廃棄物削減と再資源化

会社名	2006年度目標	2005年度実績	関連ページ
グループ目標	●最終処分廃棄物量を1999年度比85%※削減 ※2005年度実績に基づき70%より上方修正	●最終処分廃棄物量を1999年度比82.1%削減	P32-33
各社で設定している目標			
ニチレイフーズ	●最終処分廃棄物量を1999年度比85%※削減 ※2005年度実績に基づき70%より上方修正 ●ごみゼロを5事業所で達成	●最終処分廃棄物量を1999年度比82%削減 ●5事業所でごみゼロを達成(2005年度は新たに2事業所で達成)	
ニチレイフレッシュ(水産)	●最終処分廃棄物量を2005年度実績以下※にする ※2005年度実績に基づき355トンより上方修正 ●ごみゼロを1事業所で達成	●最終処分廃棄物量を231トンに削減 ●1事業所でごみゼロを達成(2005年度に新たに達成した事業所はなし)	
(畜産)	●最終処分廃棄物量を1999年度比60%削減	●最終処分廃棄物量を1999年度比61.9%削減	
ニチレイロジグループ	●最終処分廃棄物量を1999年度比80%※削減 ※2005年度実績に基づき70%より上方修正 ●ごみゼロを65事業所で達成	●最終処分廃棄物量を1999年度比75.5%削減 ●36事業所でごみゼロを達成(2005年度は新たに30事業所で達成)	
ニチレイバイオサイエンス	●再資源化率85%※達成 ※2005年度実績に基づき70%より上方修正	●再資源化率79.8%達成	
ニチレイ(フラワー事業部)	●最終処分廃棄物量を2003年度比60%※削減 ※2005年度実績に基づき30%より上方修正	●最終処分廃棄物量を2003年度比52.4%削減	

② 地球温暖化防止

グループ目標	●生産トン当たりのCO <sub>2</sub> 排出量を1999年度比12%削減	●生産トン当たりのCO <sub>2</sub> 排出量を1999年度比9.1%削減	P34-35
ニチレイロジグループ	●エネルギー排出原単位を2005年度比1%削減※ (対象：エネルギー管理指定工場となる物流センター) ※2006年4月より省エネ法が改正され、電気の使用に加え、熱エネルギーの消費も管理対象になるため、2005年度対比へと目標変更しました。 ●協力会社と連携したCO <sub>2</sub> 排出削減 協力会社におけるCO <sub>2</sub> 排出量、燃費の把握  グリーン経営認証取得を推進し、8協力会社で認証取得	●6物流センターでは排出原単位を2003年度比2%以上削減(2005年度の指定工場は14物流センター、内2物流センターは新規指定) ●省エネ法改正に対応し、輸配送業務に伴うエネルギー使用量を把握する仕組み構築やデジタルタコメーターの導入を協力会社と連携して実施 ●輸配送業務に従事する乗務員研修実施 ●5協力会社で認証取得	
ニチレイフーズ	●モーダルシフトの拡大	●3,114トン(2004年度比121%)のCO <sub>2</sub> 削減	

③ 環境に配慮した商品・サービスの提供

グループ目標	各社の事業特性に合わせて策定しており、グループ全体の目標は設定していない		
ニチレイフーズ	●市販用商品の包装資材の軽量化、トレイ廃止などによる使用量削減 PETボトルおよび缶：250トンの削減※ プラスチック類：75トンの削減※ ●物流資材(段ボール、プラスチックバンド)の規格見直しによる使用量削減 段ボール100トン削減※ ※2005年度削減量+2006年度削減量	●PETボトルおよび缶：157トンの削減(アセロラドリンクの缶を軽量化) ●プラスチック類：32トンの削減(グラタン・ドリアのトレイ小型化など) ●外箱段ボール：89トンの削減	P36
ニチレイフレッシュ(水産)	●薬剤投与ゼロで養殖したエビの取り扱い拡大 養殖エビに占める売比率60% ●リサイクル推進のため蟻引き段ボールの廃止	●売比率59.7% ●廃止完了	
(畜産)	●肥育段階での薬剤使用を低減したFAチキン、オーガニックチキンの取り扱い拡大 年間取扱量 2,300トン	●年間取扱量 1,912トンに拡大	
ニチレイロジグループ	●物流共同化などによる環境負荷を低減する事業を推進していく 営業提案時に環境配慮のための評価が実施されている	●デパート地下食料品売り場の複数テナントへの共同配送 ●スーパーマーケットやコンビニエンスストアの生鮮物流センターへの共同配送 (「グリーン物流パートナーシップ会議」において、2005年度のモデル事業として認定。内容の詳細はP12をご覧ください)	
ニチレイバイオサイエンス	●目標の設定	●目標設定に向けた検討継続	—
ニチレイ(フラワー事業部)	●天然物由来の資材使用率35%、輸送用通い箱の実用化	●生分解性プラスチックの生産資材使用継続検討	—

その他の継続的な目標と実績

環境目標	2005年度実績	関連ページ
④ 環境への影響の大きい化学物質への適切な対応	●PCB処理に向けた早期登録の実施	P37
⑤ 本社・支社オフィスにおける環境保全への取り組み	●クールビズ、ウォームビズの実施	P34
⑥ 環境マネジメントシステム構築	●(株)ニチレイフーズ 森工場でISO14001取得活動実施	P30
⑦ 環境法規遵守	●監査時のチェックを継続実施	P30